

正

確には『高齢運転者標識』と呼ぶのだ
 そうです。以前はもみじマーク、現在は
 四つ葉マークといわれる高齢のドラ
 イバーが車に貼り付けている、あのお馴染みのペッ
 タンコのことです。

では具体的にどのような方達がこの標識を貼り付
 ける必要がある対象になるかというと、「自動車免許
 を受けている人で70歳以上の人は、加齢に伴って生
 ずる身体機能の低下が自動車の運転に影響を及ぼす
 おそれがあるときには、普通自動車の前面と後面の
 両方に高齢者マークをつけて運転するように努めな
 ければならない（道路交通法第71条の5第3項等）
 とされています。」と警視庁のHPには記されてい
 ます。つまりは70歳以上の方の努力義務なのだそう
 です。一時期、75歳以上のドライバーには高齢者
 マークの表示を義務化（罰則あり）する動きもあつ
 たようですが、反発が強くて今のところは猶予され
 ている状態のようです。

さて、脈絡も無く何故にこんな話を始めたのかと
 いうと、実は私今年65歳になるのですが既に高齢者
 マークをつけて車を運転しているからなのです。つ
 け始めたきっかけは昨年の夏、高速道路を利用して
 神戸まで行ったときのこと。その頃あきらかに体力

と判断能力の低下を自覚していたので、高速道路上
 でも周りの車に迷惑をかけない程度のマイペースで
 運転がしたいと考えたからでした。つまり高齢者
 マークをその免罪符代わりにしようとしたのです。

けどここで問題となるのが70歳以下で高齢者マー
 クをつけることが違反になるか否か。調べるとグ
 レーではありますが表示すること自体は法令違反に
 はならないことがわかったので、オートバックスで
 四つ葉マークを購入して車に貼り付けて神戸へ向い
 ました。逆になめられて煽られたりしたら怖いなど
 も思ったのですが杞憂に終り、運転能力に見合った
 快適なドライブができたのです。

それ以来、毎日の通勤でもマークをつけて安全運
 転を心がけています。けど先日の積雪の朝、渋滞し
 て動かない交差点に無理矢理突っ込んで周りにご迷
 惑をお掛けしました。老害は免許返納しろ！と思わ
 れたかもしれません、御免なさい。

とは言え、高齢者マークをつけた車に対する配慮
 を欠いた運転は罰則の対象になるので私の行為は
 フェアとはいえないでしょう。ですが、そもそも高
 齢運転者の定義が65歳以上なのでですから、年寄りに
 は違いなだろうと勝手に思っています。

2025.4.14

1486号(夕焼け通信 創刊1993.4.23)

〒690-0871 島根県松江市東奥谷町386-7 gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/ 編集 宮森健次

木幡智恵美

29

老い老いに

「天草旧婚旅行」に出発した六人は、九州に入ってまずは大宰府天満宮にお参りした。そのあと予約していた熊本水前寺の宿に到着。他の皆は風呂に向かい、私一人水前寺公園を散歩する。そこで公園内にある出水神社で宗不旱の歌に出会った。放浪の旅を続けた歌人で、病の床で故郷を懐かしむ内容の歌が刻まれていた。二日目は天草五橋を渡り、海辺に出る。「点在する島々、ヤシ、ソテツなど南国を思わせる木々。島は斜面だらけ。かつては、海の資源と狭い農地で細々と生計を立てるといった土地柄であつたろう」と書いてある。この土地に立つてみて、隠れキリシタンたちが天草四郎を擁して反乱を起こしたことも、若い娘たちが南方へ嫁ぎに行ったことも想像できた。午後は、一九九一年に噴火した雲仙普賢岳に向かう。長男が、「ねえ、僕たちがおる時に噴火しない？」と思わず口走るほど、生々しい溶岩流の跡だ。その後、雲仙地獄めぐりをする。ぼこぼこ湯が吹き上がるのを見ながら歩いて行くと、十字架の建っているところに行き着いた。隠れキリシタンが拷問を受けたところだ。火山の噴火も起こる恵まれない土地で、細々と生計を営む人たちが救いを求めたキリスト教。激しい弾圧にも屈することなく、抗い続けた人々の魂が宿るこの地にたどり着いたことに感慨を覚えるとともに、そこへと導いてくれた人との縁を深く感じた。

その後に連載したのは「セカンドマザー」。「ギイチ君の虫遍歴」で長男、「わんぱく物語」で二男のエピソードを綴り、最後の登場したのが長女。実は、絵本も一冊ずつ作っているが、それも長男、二男、長女の順だ。こだわりの強い長男、一時もじつとしておらず動き回る二男に比べると、さほど特記すべきことがないように思えた長女。だが、書き始めるとそうでもなかった。保育所の入所式で、「明日から来るの嫌だ」と泣き続け、初日に窓から逃げ出すなどの暴挙に出る幼児はそれほどいないだろう。結構な長さの連載となった。

新たに夕焼け通信の紙面をにぎわしたのは、現在も朝日新聞に毎週土曜日「野の花あつたか話」のタイトルで連載されている徳永進氏の講演録「ぼくが見たいのち」、K・Aさんの詩などだ。K・Aさんの詩は、昨年亡くなった谷川俊太郎さんに絶賛されている。

その他、講演や出版の案内、コンサート等々の案内まで掲載されることが増えている。

30代フリーター 戦後長く続いてきた自由貿易体制をトランプ関税が壊そうとしている。

年金生活者 自由貿易体制は、圧倒的な経済力と軍事力でそれを支える覇権国家が存在して成り立つ。その座から転落したアメリカはすでにその力を失った。それでもなお自由貿易体制を維持しようとすれば、さらに力を消耗し続けるだけだ。トランプはそれを回避するために、一刻も早くこの体制を解体したいと考え、関税をその武器に選んだ。

トランプは関税率を発表した演説で「この関税は、我々の経済的独立宣言なのだ」と語った（4月4日朝日新聞朝刊）。彼は18世紀の独立革命を超える、世界規模の革命、世界システムの転換を実現しようとしている。トランプが今しているのは、それにもなう大リストラであり、これまでのシステムが備えていた自由貿易体制や安全保障体制、途上国への支援体制の解体ないし改変、縮小にほかならない。覇権

徴は域内に多様な地域、勢力、文化を抱え、域外に服属国ないしそれに近い諸国を従えているところにある。独立性の強い州の集合体であり、覇権国家として海外に同盟国という名の服属国を従えるアメリカはその意味で世界帝国だった。

その経済的な基盤は、モノをつくる第2次産業を牽引車とする産業資本主義だ。それがモノをつくらない第3次産業を牽引車とするポスト産業資本主義に移行したことで、覇権の基盤が揺らぎ始めた。モノづくりの主導権を中国などの新興国に奪われたばかりか、モノをつくらない第3次産業でもITやAIなど先端分野で中国に急迫されている。

トランプはそうした自国の危機を他国に富を奪われたせいだと考えた。それは覇権国家の地位を維持するためのコストだったのだが、彼はそれを不公平と考え、しかも貿易赤字の膨張と同一視した。経済の常識からかけ離れた法外な関税はそれを政策化したもの

国家であるために必要だったそれらの体制は、その座から転落したアメリカにとつては担いきれない重荷になった。

30代 中国はすかさず報復関税で対抗した。

年金 両大国による関税の応酬のEscalationは世界経済を危機に陥れるので、いずれ「停戦」を迎えるはずだ。しかし、戦いそのものが終わるわけではなく、経済力、情報力、軍事力を駆使した両国の無血の戦争が常態化した時代が続くだろう。

30代 トランプは高関税でアメリカに製造業を復活させると言っている。

年金 関税の第一の目的は国内産業の保護にあるのに、米国内にはもうなくなった製造業を国外からの投資によって復活させようという、関税の「目的外使用」をやるうとしている。

トランプの支持基盤の核をなしているのは、製造業の衰退で「忘れられた人びと」となった白人労働者たちだ。彼らを救うためとしてトランプが掲げ

だ。

30代 前政権との差が大き過ぎて別の国に見える。

年金 帝国からの脱皮を急ぐトランプに対し、帝国の体裁を残そうとしたのがバイデンだ。大統領選で「多様性」の象徴的な存在であるハリスに候補者の座を譲る一方、同盟国重視の姿勢を取り続けた。衰退しつつあるとはいえ、帝国のメリットを感じ、それを求

た公約が製造業の復活だ。しかし、先進国における製造業の衰退は、産業資本主義からポスト産業資本主義への移行にともなう不可避の変化であり、人為的にそれを阻むことはできないし、まして元に戻すことなど不可能だ。

ところが、トランプはそれが大幅な関税の引き上げできると主張している。輸入品に高い関税をかければ、それを生産する外国企業が米国市場を手離すまいと、工場を米国に移して現地生産を始めるはずだという皮算用をしている。だが、関税は輸入コストを上昇させる。それで原材料や中間財の価格が上がれば、製造業は利益を圧迫されるので、投資意欲は逆に低下する。

先進国で製造業の復活を狙うのは、現在のポスト産業資本主義を前時代の産業資本主義に後退させる、ドン・キホーテ的な政策だ。

30代 時代錯誤が生み出す派手さがトランプ支持者には受けるのだろうか。

年金 覇権国家は古代以来の帝国の現在版とみなすことができる。帝国の特

める有権者がいるからだ。

帝国のメリットは、広域的な平和の維持、経済規模の大きさ、多様な文化の共存などだ。地域帝国としてのEUは戦乱が絶えなかつた欧州に恒久的な平和のシステムを構築したし、世界帝国のアメリカはソ連との戦争の冷温化を実現した。この欧米の両帝国はまた巨大な経済圏を形成し、多文化の共存を保障した。

しかし、帝国は国民国家の持つメリットである国民の平等や主権在民を妨げるリスクをはらんでいる。資本主義をエンジンに帝国として復活を遂げた中国を見れば明らかだ。だから、帝国と国民国家のそれぞれのメリットを組み合わせた国家形態、世界システムがこれまでいくつか構想され、具体化も試みられてきた。帝国であると同時に国民国家の集合体でもあるEUはその中で最も成功した例と言うことができる。英国が離脱したり、域内に摩擦を抱えたりしながらも機能し続けており、未来性も失っていない。

ニュース日記 963
中村 礼治

トランプ関税